

# 日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.34

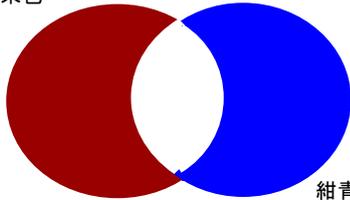
일한 시민 네트워크·나고야

2006-6-24

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃  
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238  
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

1. 巻頭特別寄稿 \_\_\_\_\_ 民団顧問 鄭煥麒
2. 事務局通信 \_\_\_\_\_ 統括幹事：後藤和晃
3. ニュース \_\_\_\_\_ 事務局
4. 会の活動報告とお知らせ \_\_\_\_\_ 事務局
5. 会員の広場 \_\_\_\_\_ 会員の皆さん
6. ソウル便り \_\_\_\_\_ 二日市 壮さん

## 巻頭特別寄稿

父の教え

民団顧問 鄭煥麒



古来より人の道を教えた名言は多い。その伝達方法は千差万別である。

私たちが、初めて人から物を学ぶ時、小学校の先生の言葉を思い出す。そして、一步外に出ると、神社や仏閣をはじめ、人の集まる場所、至るところに人間としての生き方や戒めの言葉が掲げられている。

ある寺に「人の道」という額が掲げてあった。

- 一、忘れてならぬものは恩義
  - 一、捨ててならぬものは義理
  - 一、人に与えるものは人情
  - 一、繰り返してならぬものは過失
  - 一、通してならぬものは我意
  - 一、笑ってならぬものは人の失敗
  - 一、聞いてならぬものは人の秘密
  - 一、お金で買えぬものは信用
- 人が人として生きていくことは難しい。我々

は、こうした教えや戒めの言葉を、忠実に守りながら社会生活に励みたいものだ。また数多くある戒めの言葉や、常日頃、親から教わった数々の言葉も大切ではなからうか。自分が逆境にあつては、何ものにも代え難い励ましとなり、また、順境のときに陥りやすい高慢な気持ちの戒めとなる。また、私たちはややもすると、社会道德の基準から逸脱しやすいものだが、そうした場合の警鐘となる。

この親の教えや家訓にも色々ある。

私の親友・李君は、父親から社会生活上の指針ともなる三つの教えを授かり、それを忠実に守ってきた。そのため、世間から尊敬されている。

- 一、祖先を忘れるな
- 二、人から後ろ指をさされるようなことをするな
- 三、人を泣かせると自分の眼から血の涙が出る

というもので、誠に立派な人生訓である。

私は幼少の頃、父から「人に迷惑をかけるな」「人のためになる人間になれ」と口癖のように諭されてきた。その教えは例えば他人の重い荷物を持ってあげたり、荷車を押してやるとかして、困っている人に力を貸してあげるべきであると思った。私は父の言葉に従って、子供ながらもそうしたことを実行してきたつもりである。

親友の父親の戒めの言葉は、人の道はずさぬよう「祖先を忘れたり、人から後ろ指をさされるような行為をするな」という、己を修め立派な社会人になることを期待したものであるが、今一つ物足りないのは、「社会のために」という言葉がないことである。いわば、消極的な論しでもある。

それに引き換え、「人のためになる人間になれ」は、己を少々、犠牲にしても自ら進んで社会のために奉仕するように、と諭している。いわば、前者と根は同じであるが、このほうが積極的な教えの意味であるように思う。

昭和 30 年、大阪で同胞の一人が凶悪な犯罪を犯した。これを聞いた同族の若者が、同族としてその責任の一端を感じ、警察署に「殉職した警察官の遺族に」と、お詫びの印に見舞金を届け、名も告げずに立ち去った。

このことが新聞に載った。それを読んだ父は、私に「われわれ同胞にも、こういう立派な青年がいる。お前も経済的に多少、余裕ができれば、こういう人を見習いなさい」と言われた。私は「ハイ、分かりました。そうするよう努力します」と素直に答えた。後日、それが私であるということがわかり、その事件のおかげで私は思いもよらぬ親孝行をさせてもらった。私は「人のためになる人間」になることは、孟子の言葉である「恒産無き者に恒心無し」という言葉をよく聞かされていた。わかりやすく言えば、「衣食足りて、礼節を知る」ということであろう。

敗戦後の貧窮の中、日本社会で立ち上がるにはどうしても安定した資産を得なければ、と戦後の解放を機に精一杯働き、前述の事件当時には、心ばかりの見舞金を出せるようになった。これも父の教えを心に銘記し、常に忘れないでいたからだと思う。

編集部注：「昭和 30 年に起きた凶悪事件」とは大阪の東海銀行支店に銀行キャング（犯人は韓民族の 1 人だった）が押し入り、駆けつけた警察官を射殺した事件。同胞が起こした事件にやりきれなさを感じた若い日の筆者は “警官の遺族のために せめても見舞金を” と 100 万円もの大金を名を秘して届けられた。その事実を知った朝日新聞などが爽やかなニュースとして大々的に報道し、鄭煥麒さんの行為であることが明らかになった。

今日、齢を重ねて自分の来し方を顧みると、父の教えがいかにか大切なものであったか。そして、父の教えをいささかでも実践することが出来たであろうか。自問自答すると同時に、私も人の親として、子供たちに私の父のように教え諭すことの出来る人間であろうか！父の声が聞こえてくるような気がする。

これからの人生、いっそう努力精進して、過ぎし日の父の言葉が自分自身の言葉でもありたい、と念じているこのごろである。



## ◇ 事務局通信

事務局 統括幹事：後藤和晃

(1) “交流の夏” を支えてください！

①光州 学生訪問団・8月3日来日！

ことしもまた交流の夏がやってきます。訪れるのは



韓国の芸術・芸能の都といわれる全羅南道光州市の大学 は次の通りです。  
生たちと引率者のYMC A幹部らあわせて16人です。  
光州からの訪問団は、これで4回目、今回の訪問の概要

8月3日(木)	午後 KAL 機でセントレア着→バスで奈良へ→	奈良泊まり
4日(金)	東大寺、平城京、法隆寺を見学→名古屋へ	ホスト宅泊まり
5日(土)	ホストらと自由行動	ホスト宅泊まり
6日(日)	自由行動 17:00 韓国学校 “交流の夕べ”	ホスト宅泊まり
7日(月)	空港集合 -KAL 機で帰国	

私たちの会は、発足いらい夏になると、韓国の光州・大邱・大田などの都市から学生交流団を上記のような形で受け入れてきました。「継続は力なり！」といいますが、このような積み重ねの結果、名古屋を訪問した学生が日本に留学してきたり、日本と関係ある企業に就職したりする一方、会員の学生が韓国に留学し交流の絆を深めて帰ってくるなどの成果が上がってきています。この夏訪れる若者たちも、旅行やホー

ムスティを通して日本人を見直し、会員の皆さんとの友情を深めてくれると信じています。

例年、訪問団の受け入れにあたっては、一部の会員に3泊4日のホームスティをボランティアで担当していただいています。その他の皆さんにも項目②と③にあげるような形の支援をお願いしています。

## ②奈良一泊旅行に寄付をお願いします！ ～ 募金目標は25万円です ～



私たちの会は、韓国から交流団を迎え入れるたびに、募金を行って奈良への1泊バス旅行をプレゼントしてきました。会員歴の浅い皆さん方のために、その背景を説明させていただきます。

奈良1泊旅行を行う大きな理由は二つあります。一つは私たちの団体のホームスティの受け

入れは3泊4日(家庭に父親がいる金曜夕方から月曜の朝まで)が限度なので、1日でも滞在日数を増やしてあげたいと旅行を行うようにしたのです。

第二に奈良に行けば韓半島では歴史の彼方に消え去って決して見ることのできない(1300年も前の)古代朝鮮の面影を法隆寺や薬師寺、東大寺などの寺や塔、仏像に忍ぶことができます。韓国の学生たちは、奈良で花開いた仏教文化の背景に古代朝鮮の強い影響があったことや、人の交流も濃密だったことを知り、いにしえからの絆に気づきます。さらに日本人が1300年もの間、寺々や仏像を火災から守りきってきた事実で驚愕し、ここから日本文化や日本人への関心を芽生えさせて行きます。

このように奈良1泊旅行は訪問団の学生にとって極めて有意義な試みであることは、これまでの経験から自信を持って報告できます。

会では、旅行を実施する当初から、いかにすれば経済的負担を少なくできるか腐心してきました。その結果、移動はレンタルしたマイクロバスをボランティアドライバーに運転してもらい、宿舎はユースホステルなどの公的施設、昼食は弁当会社からの購入などとして実施してきました。しかし、こうしても会の方から解説役や通訳、日本の学生などを加え20人をこえる旅

行には30万円前後の費用がかかります。こうした状況から、例年25万円を目標に会員の皆さんからの寄付をお願いしてきました。大変恐縮ですが、この会報と共に、寄付用の振り替え用紙を同封しますので、ご芳志を郵便局から振り込んでいただければ幸いです。

万一振り込み用紙を紛失された場合は、下記の要領をお願いします。

郵便振り替え

口座名 日韓市民ネットワーク・なごや

口座番号 00830-4-36485

通信欄 寄付金・交流の夕べ参加費など金額と共に明記願います。

期日 7月15日までにお振込みください。

### ③ “光州訪問団との交流の夕べ” にご出席を！

私たちの会では、韓国から学生訪問団が訪れるたび下記の要領で会をあげて親しく歓迎し交流を行ってきました。一行15人の中には日本語を上手に話せる人が何人もいますし、私たちの会員の中にも通訳を果たせる人も数多くいます。

安心して出席し、光州の若者たちと未来志向の交流を楽しみながら、幹事の中川修介さん（元プロの寿司店経営）が握る美味しい寿司の味をも楽しんで下さい。

光州訪問団との交流の夕べ

日時 8月6日（日）17:00～19:30

場所 名古屋韓国学校 2階教室

※電話052-452-0321

※地下鉄東山線亀島駅2番出口から北西へ徒歩3分

参加費 会員・一般人3500円、大学生・高校生2000円、中・小学生1000円  
5歳以下無料

出欠アンケート 同封のハガキで出欠などお知らせください。出席の方は当日の受付の混乱を避けるため、事前（7月15日まで）に振り替え用紙で振り込んでください。

## (2) 会の「学術顧問」を委嘱しました！



今回、東海地方で韓国・朝鮮考古学の第一人者として著名な考古学者“南山大学名誉教授”伊藤秋男さんに私たちの会の「学術顧問」への就任を快諾いただきました。伊藤さんは若い日、ドイツ

のミュンヘン大学に留学され考古学を学びました。特に力点を置かれたのが紀元前に黒海周辺の草原で遊牧騎馬という革命的な暮らしを開発したスキタイの研究でした。このスキタイが開いた大草原に羊の群れを養う遊牧民族の生き方や文化が東方に伝わり、その影響の下に匈奴や鮮卑そしてモンゴルなどの騎馬民族が活躍、アジアの草原を我がもの顔に闊歩したわけです。いらい、旧満州から韓半島、そして日本列島に至るまでの東アジアの古代王朝たちは、騎馬民族文化の影響を濃淡の差はあれ受け入れてきたといえるでしょう。

伊藤さんの研究は、スキタイの文化の東遷から古代東アジア各国での受容の形まで及んでおり、こうした深く幅広い視点から、古代の日韓

交流の真実を探求されています。

私たちの会員の中には韓半島からの文化流入が古代日本の成立に決定的な影響を与えたと考え、古代史や考古学の勉強を続けている人が数多くいます。こうした会員の皆さんに今後は折にふれ伊藤さんの話を聞いていただけるようにする予定ですが、当面は（ ）ページに載せてあります7月5日の韓日・歴史文化フォーラムでの先生の講演にお出かけいただくようお願いします。



## ニュース

このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気付きになったニュースがあればお知らせください。

### ◎ 「歴史教科書 在日コリアンの歴史」 発刊

在日本大韓民国民団 中央民族教育委員会が企画した「歴史教科書 在日コリアンの歴史」が発刊されました。

在日の歴史を解放前と解放後分け、前者では「韓国併合」、2・8独立宣言、強制連行、徴兵・徴用を、後者では南北分裂、外国人登録令、韓日法的地位協定、地方参政権や就職差別の問題などを、高校生向けに分かりやすく説明しています。スポーツ選手や作家らの人物コラムも充実しています。

執筆者の中には、昨年胃がんのため惜しまれながら亡くなった故・金敬得弁護士、「『歴史教科書 在日コリアンの歴史』作成委員会」には、名古屋韓国学校の尹大辰校長先生も参加しています。

(民団愛知のホームページより <http://mindan-aichi.org/>)

企画：在日本大韓民国民団 中央民族教育委員会  
編者：『歴史教科書 在日コリアンの歴史』作成委員会  
発行所：株式会社 明石書店  
定価：¥1,365 (税込)



### ◎ 武井一氏の著書が朝日新聞 に紹介されました

当会の会員でもあり、東京都立高校講師でもある武井一氏士の著書「皇室特派留学生—大韓帝国からの50人」が朝日新聞に紹介されました。

.....  
百年前、希望を持って日本にやってきた留学生たち。留学先は東京府立第1中学校（都立日比谷高等学校の前身）「特設韓国委託生科」。朝鮮が日本の植民地をたどるこの時代に、彼らは日本で何を感じ、どう行動したのか。

— 表紙カバーより抜粋 —

.....

皇室特派留学生—大韓帝国からの50人



## ◎ 大邱友好訪問団の歓迎会を行います ～ 7月30日(日)・名古屋 ～

韓国・大邱市に戦前、大貯水池を作った岐阜出身の故水崎林太郎翁の墓(大邱市の寿城地区)を守り続けている徐彰教さん(韓日親善交流会長)夫妻や崔京洙さん(交流会事務局長)らが、大邱市と岐阜市の幼稚園同志の交流を仲介するために来日されます。

会では、この機会に大邱の一行を東山動物園などに案内する一方、韓日親善交流会のメンバーの歓迎会を7月30日(日)の夜、名古屋で行うことにしています。歓迎会は事務局と水崎翁の関係者が中心になって行いますが、参加希望の方は事務局までご連絡ください。(現段階では歓迎会の正確な時間、場所は未定です)

## ◎ 高電社社長 高基秀さんがご逝去



(6月22日の社葬から)

1990年に世界で初めて日韓同時翻訳ソフトを開発したことで著名な大阪・高電社の会長の高基秀さん(71歳)が、さる5月22日肺炎のため逝去されました。高さんは私たちの会の創立当初から会の良き理解者として全面的に応援していただいていた方でした。

7年前には会員らを対象に“生みの親韓国・育ての親日本”と題して心に残る講演をしていただきました。また韓国からの交流団や留学生のグループを奈良に連れて行くたび、大阪からわざわざ駆けつけ韓国の若者たちに「韓日友好」の大切さを説いてこられました。近年は在日の少年・少女のための学校金剛学園の理事長としても奮闘されていただけに、高さんのご逝去には言葉を失う思いがします。

心よりご冥福を祈ります。

## ◇ 会の活動報告とお知らせ

### 1. 報告

#### 1) 望郷シニアの集い、盛況

5月20日(土)名古屋の居酒屋で戦前、韓半島や旧満州に住み敗戦とともに帰国したシニア会員たちの集いがありました。この日は韓国人留学生6人を招いて総勢21人となり、懐かしい生まれ故郷の今昔について話が盛り上がっていました。対話のさなか、韓国の定形詩、時調の研究者として有名な瀬尾文子さん(光州出身)

が留学生の代表に自著を贈ったのに対し、学生たちは「韓国人にも難しい時調の研究を日本のご婦人がされているなんて…ビックリしました!」と感激していました。またシニア会員からも「今回は韓半島出身の留学生ばかりだったけれど、次回は旧満州から来ている留学生にも参加してもらおう!」という声が出ていました。

出席した留学生の感想文です

## ◎ 大田の集まりに行って来て・・・

今回の大田故郷の集まりは大田に生まれた私達には意味が深い集まりでした。韓国では会えない良い方々と会うことができ本当にうれしかったです。日本人なのに大田を忘れないで故郷を愛する気持ちでそのような集まりを作っているのが韓国人としてありがたい気持ちも感じ

## ————— 金城学院大学留学生 金 恩貞

ました。かなり歳月が経ったが昔の大田を忘れず、色んな話しを感銘深く伺いました。昔の大田の地図も持っていらっしゃって今とは地名が非常に変わったけれども説明を聞いたら大部分かりました。

私は自分の生まれた故郷を今まで愛している

方々との出会いを通じて、私が生まれた大田をもっと大切に思うようになりました。これからは今度の大切な出会いをいつも心に刻んで、生きていこうかなと思います。

そして大田というところを故郷としてもっと自分の中で誇りを持って頑張って生きたいなと思いました。またこういう機会でお会いに出来たらいいなと思います。

## 2) “全龍福さんの漆の美” 探訪紀行

5月26日(金)から27日(土)にかけ、漆らでん工芸家の全龍福さん(会員・盛岡市)の漆の美を極めてこようと会員ら11人で盛岡市にある岩山漆美術館と東京の目黒雅叙園を巡ってきました。詳細は会員の旅行記をお読みください。



### ◎ 漆の美と人との出会い

会員 岩下洋子

5月26日、盛岡にある岩山漆美術館へ出発する日です。3月に栄の三越で、全龍福さんの漆・螺鈿(らでん)工芸の作品群に魅了されて以来、全さんの作品が収蔵されている盛岡の美術館と東京目黒の雅叙園へ行く事は私の夢でした。

11名の仲間と飛行機で向かった盛岡は晴天。町の背景に残雪をいただいた岩木富士が豪快な姿を見せていました。盛岡は宮沢賢治や石川啄木を生んだ風土にふさわしく、文化の香りが漂う緑いっぱいの街でした。町はずれにあった岩山漆美術館は文化財的な民家を集めて造ったというだけに、風格のある巨きな木造建築でした。

した。まず目に飛び込んできたのが、精魂込めた世界最大の漆の作品、「岩手の魂」でした。

「縦2.42m,横18m」の巨大さで岩木富士や天の河、チャグチャグ馬っ子、縄文文化など岩手の自然や人の魂の根源にあるものがみごとに表現されています。

別の部屋では、全先生は展示されている漆の木を撫でながら、漆のすばらしさを話されました。漆の幹の部分に刃物で傷をつけると、木はその部分を治そうと樹液を出します。この液を掻き取ったものが漆で、植栽して15年の木からわずか150グラムしか採取できないといいます。しかも一度漆を取るとその木は枯れてしまうのだそうです。

そんな貴重な漆は、乾燥すると熱や酸に強く腐食もせず、衝撃にも強いというすばらしい特性を発揮します。家具や食器などに塗布し大切に扱えば5000年以上保つとといいます。最近では漆には環境を浄化したり、電磁波を吸収するなどの効果があることも分かってきました。全先生は、これら漆の特性の全てを理解した芸術家として、来年からは世界各国で漆の美を展示したいと話されています。本当に楽しみです。



中に入ると大人でも抱えきれないほどの頭上の梁の太さに圧倒されました。部屋ごとに全先生の力強い作品がいっぱい展示してありま



26日は美術館の三周年記念日だったので、

夜には“韓国の天才ピアニスト”として著名なキム・チョンウォンさんのコンサートもありました。私たち一行も招待を受けたのですが、コンサートでは魂をゆすぶられるようなみごとな演奏で、心が洗われるような思いを味わいました。

この会場では、なぜか高校生の姿が目立ったので、会員の一人が理由を聞いたところ全龍福先生がこのようにいわれました。「すばらしい演奏を聞けば、誰しも感動を覚えます。音楽をやっている高校生たちなら、人間の十本の指からこれだけみごとな調べが生まれてくるのかと感動し、自分も努力しようと思うでしょう」高校生の数は150人、全て無料招待だったそうです。

このコンサートの後、地元の関係者と韓国からやってきた人たち、そして名古屋グループも参加しての食事会がありました。日韓両国語に時おり英語がまじっての賑やかな交流が展開して大いに盛り上りました。

翌日は全先生にも同行していただいて、東京の目黒雅叙園に行きました。中に入るとエレベーターの内外から長い通路の壁面、はてはトイレの中に至るまで、美事な漆と螺鈿の作品に埋め尽くされていました。「わぁ すごい！」「何と表現したらいいか言葉が出てこないね」など同行した人たちが呟いていました。



この雅叙園に全先生が韓国からやってきたのは36歳だったとのこと。日本の工芸家が全て戻込みしたのを受け雅叙園にある5000点にもものぼる漆・螺鈿の作品を修理し創作も行ったのでし

### 3) “韓国語”しゃべらナイト！実施

6月18日(日)に名古屋市の鶴舞公園脇の名古屋国際日本語学校(会員・大田雅隆氏の経営)で、「韓国語でしゃべりまろう！」という主旨の行事を行いました。参加したのは、留学生と韓国語に関心のある会員ら25人で、夕方5時に集合し、およそ3時間にわたってワイワイと韓国語でのやりとりを続けました。もちろ

た。今は「日本伝統の漆の美を現代にマッチさせ発展させている巨匠」として遇されている方に、作品の一つ一つを説明していただくという贅沢な機会に恵まれ、一行はみな有頂天でした。

私の人生の師匠が度々、こう言いました。「芸術は人間の心の奥底に眠っているものと呼び覚ます！」「一流に触れるようにしろ、そこには一流の人格がある。一流の人格から学ぶものは多いはずだ！」

今回の漆の美紀行は、全龍福さんの一流の作品と一流の人格との出会いの旅でした。作品にもその生き方にも大きな感動を覚えました。また同行していただいた日韓市民ネットの皆様にも、人柄の良さと一流の人格を感じ、この会に参加できた事を心から喜んでいます。「人生はドラマの如し！」というそうです。主人公の私自身はあまりパツとしない人間と自覚していますが、「感動できる心」だけは誰にも負けないつもりです。

今後も会の行事に参加することで、一流の人や芸術との出会い、そして感動を積み重ねていきたいと考えています。皆さん本当にカムサハムニダ！



ん韓国語を始めたばかりの人たちもいたため、日本語でのやりとりも目立ちましたが、「韓国語の意欲がさらに沸いて来ました！」と話す人が多くいました。

会ではこうした行事を時々実施しますので、韓国語に関心のある方はぜひ参加してください。

#### 4) 奈良散策

##### ◎ 奈良に行って来て

金城学院大学留学生 金 正蘭

私は今まで何回も日本に旅行で来ていますが、奈良にはなかなか行く機会がありませんでした。奈良と京都の間で迷って結局京都に行きました。それで今度がはじめての奈良散策です。

奈良に行ったことがある友達に聞いてみると、奈良はお寺と鹿しか思い出さないと聞いていたので少し地味な所というイメージがありました。そう思いながらついに当日を迎えました。加藤さんが作ってくださったおにぎりやサンドイッチを食べながら、久しぶりに遠足をしているような気持ちになりました。

ついに奈良に着いて法隆寺と薬師寺と東大寺そして興福寺に行きました。中国や韓国から受け入れた仏教文化を日本なりのものに発達したのを見て、日本と韓国は昔から交流があったことを改めて確認することができました。宮崎さんがいろいろ説明してくださったので、大事なものを見のがさずすみしました。宮崎さんの説明を聞きながら、その当時はどんな日韓交流が

あったのだろうかと思いを巡らしました。

今回私達留学生のために、このような機会を作ってくださった日韓ネットワークのみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

